

私の子どもはてんかんになるでしょうか？

弘前大学医学部神経精神科助教授 兼子 直



まれてくる子どもの健康状態に関心をもつのは当然です。遺伝カウンセリングの目的は、各個人もしくは家族に対して、これから生まれてくる子どもや他の家族内の人がてんかんになる可能性について情報を提供することです。

●家族のてんかんになる危険性はどれくらいですか？

子どもが十五歳以前にてんかんになったら、その同胞（兄弟、姉妹）が二十歳までにてんかんを発病する危険性は三〜五パーセントになります（一般人口では約一パーセント）。もし、てんかんが二十五歳以降に発病したら、その同

てんかんが子どもに遺伝するの否かは妊娠中の人だけでなく、これから結婚する人にとってもたいへん重要な問題です。しかし、最近までこの問題に対する統一された見解は有りませんでした。

そこで、国際抗てんかん連盟「遺伝、妊娠とその子ども」委員会は一九九二年十一月、ミラノ（イタリア）にて、次のようにてんかんの遺伝カウンセリングのためのコメントをまとめました。主治医が患者さんへの遺伝カウンセリングに利用するものです。この問題で悩んでおられる患者さんが少なくないことから、早めにこの情報を提供します。

てんかんの遺伝カウンセリングのためのコメント「私の子どもはてんかんになるでしょうか？」

●てんかんとは？

てんかんは、発熱とは無関係に繰り返し（二回以上）発作をおこすものです。種々の原因からおこります。

●てんかんはどれくらい多いですか？

二十歳までの人の約一パーセントにみられ、二十歳以降の人も含めた時にはその頻度は三〜四パーセントになります。発作の中には子どもあるいは思春期に発病し、その後、良くなり治療が要らなくなるものもあります。他の発作型はより長期間の治療が必要です。

●てんかんの原因にはどのようなものがありますか？

脳の外傷や感染症、アルコール、脳卒中発作などは反復性の発作の原因になります。しかし、多くの場合、原因は不明です。

●てんかんは遺伝しますか？

てんかん患者の血縁ではリスクは高いのですが、一般の人が考えているよりは少ないようです。小数の（おそらく五パーセント以下）症例では遺伝が関与します。各家族に対して、遺伝カウンセリングが最良の情報を提供します。

●遺伝カウンセリングとはどのようなものですか？

これから子どもの親になろうとするとき、生

胞にとつての危険率は下がり、約三パーセントくらいになります。

母親がてんかんなら、その子どもの八〜九パーセントがてんかんになる危険性があります。妊娠可能な年齢にあるてんかんをもつ女性は、胎児に対する副作用を軽減できるように、主治医に抗てんかん薬の種類と量が適切であることを確認しておくことが重要です。

父親がてんかんの場合には、子どもがてんかんになる危険性は低く約二〜三パーセントです。子どもや患者に遺伝性ではない何らかの原因があればこれらの割合は低くなります。反対に、家族内に二人以上の患者がいる場合には頻度は高くなります。

主治医や遺伝カウンセラーは、最善の答を出すためには以下のような情報が必要となります。家族歴……家族内の誰がてんかんの症状をもっているか？

診断……どのような発作があったか？

発病年齢……てんかんをもつ人で、最初にどのような症状がみられたか、それは何歳で発来したか？

可能性のある原因……発作の原因になるような事故や感染症などの要因がなかったか？身体疾患はなかったか？

熱性けいれんは別に考えねばなりません。多くの国で、五歳前の子どもの二〜四パーセントに熱性けいれんがみられます。これらの子どもの同胞の六〜八パーセントに熱性けいれんが生じます。もし片方の親が熱性けいれんをもっていたとしたら、この頻度は二一〜二十五パーセントに増加します。日本では一般人口の八パーセントに熱性けいれんがみられ、同胞ではこの頻度は二一〜二十五パーセントになります。

●現在のどのような研究が行われていますか？
てんかんの遺伝子は人の染色体のある部分に存在します。若年ミオクロニーてんかんとそれに関連する思春期の全般てんかんの遺伝子は第六染色体上にあります。良性家族性新生児けいれんの遺伝子は第二十染色体上にあります。進行性ミオクロノースてんかん (Baltic type) の

遺伝子は第二十一染色体上にあります。これらの遺伝子が、どのようにしててんかんをおこすかについて、そして他のてんかんの遺伝子を探る研究についても行われています。

●何かお手伝いできますか？

お願いします。家族内に何人もてんかんをもった人のいる家族の協力が必要です。もし、ご協力いただけるのであれば、きつと主治医はこのような研究をしているグループに紹介してくれるでしょう（日本でも近く共同研究が開始される予定です）。

国際抗てんかん連盟「遺伝、妊娠とその子ども」委員会／委員：D. Janz, G. Beck-Mannagetta, D. Lindhout, E. Anderson, R. Canger, V. Hilsmann, S. Kaneko, H. Klepel, and H. Nau.